

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し、自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- （１） 自己を高める力（確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志）の育成
- （２） 人とつながる力（人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切にし、周囲と協力し合う力）の育成
- （３） 社会に貢献する力（地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力）の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- （１）エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- （２）エンパワメントスクール（総合学科）として選択科目及びエンパワメントタイムの学習内容の充実と新学習指導要領における教育活動の充実を図る。
 - * 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和8年度にも75%以上を維持する。（R3：69.7%、R4：73.9%、R5：78.3%）

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- （１） 生徒一人ひとりを大切にする生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。
 - * 中途退学率を令和8年度にも5%以下を継続する。（R3：5.1%、R4：4.3%、R5：5.7%）
- （２） 生徒が安心して学校生活が送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、人権保健部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- （３） 中高連携を密にし、中学時の状況を早期に把握し、個々の生徒指導に活かす。
- （４） スクールカウンセラー（SC）スクールソーシャルワーカー（SSW）キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を密にし、教育相談体制を充実させる。安心して学ぶことができる環境を確保するとともに、不登校経験のある生徒や障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒等に対して、個別の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。
 - * 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和8年度にも75%以上を継続する。（R3：69.4%、R4：77.6%、R5：77.9%）
- （５） 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- （６） 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- （７） 外国にルーツがある生徒が多い学校として「多様性」を大切にし、学習保障と進路保障支援を行うとともに、一人ひとりの力を最大限に伸ばす教育を進める。
 - * 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和8年度にも80%以上を継続する。（R3：76.9%、R4：83.6%、R5：87.7%）

3 キャリア教育・進路指導の充実

- （１） 卒業後をみすえた進学・就職支援（勤労観・職業観・社会人基礎力を養い、将来の自分の生き方に展望を持つための働きかけ）を積極的に行う。
- （２） 学ぶ、働く、自分らしく生きることの大切さを理解し自己肯定感を育めるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- （３） インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることでつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
 - * 進路決定率を令和8年度にも85%以上を維持する。（R3：84.5%、R4：79.9%、R5：89.3%）
 - * 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和8年度にも85%以上を継続する。（R3：82.5%、R4：85.6%、R5：85.4%）

4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

- （１） エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。
 - * 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和8年度にも75%以上を維持する。（R3：64.9%、R4：71.8%、R5：75.6%）
 - * 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和8年度も80%以上を継続する。（R3：78.5%、R4：83.6%、R5：86.6%）
- （２） 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

5 教職員の働き方改革を進める

- （１） ノークラブデー・全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。
- （２） 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。
 - * 教員の時間外勤務の年間平均時間を令和8年度には295時間以下とする。（R3：361時間52分、R4：314時間36分、R5：296時間）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 - 授業がわかりやすく楽しいと感じる度合いは横ばいながら（78.3%→77.4%）、授業における先生の工夫（88.7%→92.8%）やその内容について尋ねやすい（78.9%→84.0%）と生徒が感じ取っている。また、エンパワメントスクールならではの基本からしっかり取り組む学習に関して、「30分授業は苦手な分野の学びなおしに役立っている（91.4%）」の肯定的評価は引き続き高かった。 - 保護者が、学校の雰囲気や生徒の様子が生き生きとしていると感じている、という肯定的評価が前年度より高まった（59.7%→62.1%）一方で、授業への生徒の期待度や理解度	第1回 7月13日（土） 1.『布施北高校 スクールミッション・スクールポリシー』について - インターンシップの経験を機に、2年生でデュアル実習を選択したが、子どもは毎回の実習をととても楽しみにして、多くのことを学んでいる。これらの取組みとも密接に関わり、理念を示す布施北高校のスクールミッションやポリシーはより広く知られてほしい。 - 布施北高校のミッション・ポリシーはこれまで布施北高校が取り組んできたことを可視化するもの。これらを通じて生徒自身が布施北高校でどのように成長したいかを考える機会を持つことも必要。

に対する肯定的評価は前年度を下回っており（57. 6%→48. 3%）、また、教職員の授業改善や校内研修の状況に関する自己評価（「計画的に研修が実施されている」・「校内研修が教育実践に役立っている」）が前年度を下回っている（75. 9%→70. 0%、65. 5%→59. 6%）ことから、来年度はこれらについて取組みを進める必要がある。 【生徒指導等】 ・「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定的評価が比較的高い水準で推移してきたが、昨年度よりもさらに上昇した（73. 1%→75. 8%）。先生に対して生徒たちが「相談しやすい」「質問しやすい」と感じるようになってきていることが、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい（78. 9%→84. 0%）」・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い（77. 9%→81. 7%）」・「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる（70. 3%→78. 5%）」の肯定的評価の上昇からうかがえる。 ・また、教育相談体制が整備され、担任以外の教員と生徒が相談できる環境が整ってきたという評価（82. 8%→94. 2%）や、問題行動やいじめに対する対応が組織的にしっかり行われているという評価（82. 5%→94. 2%、94. 8%→98. 1%）が教職員の間で上昇している。 ・保護者においては、学校が相談に対応してくれるという肯定的評価が上昇（69. 1%→70. 3%）しているものの、「学校の生徒指導の方針に共感できる」（61. 6%→59. 3%）や「学校は相談しやすい雰囲気である（71. 2%→63. 9%）」の肯定的評価が下降しており、保護者全体への方針の提示や説明を引き続き丁寧に進める必要がある。 ・今後もさらにチーム学校で生徒を支える生徒指導に取り組んでいきたい。 【学校運営等】 ・情報提供の手段として学校連絡用メールサービスや学校 Web ページをともに活用している。連絡網の認知度は今年度大きく向上した（66. 2%→98. 6%）が、保護者の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的評価は前年度より下降した（77. 7%→68. 3%）。保護者向けの連絡等について引き続き丁寧に行っていきたい。	・教職員がミッション・ポリシーを確認する機会が増えるよう、掲示するなどの工夫があってもよいのではないか。 2. 令和 5 ・ 6 年度 学校経営計画及び学校評価について ・布施北高校に通っている子どもの話を聞いていると、外国にルーツのある生徒を特別扱いすることなく、クラスの雰囲気は非常に良いと感じる。様々な価値観に触れ、多文化理解が進むことは、社会に出てからもきっと役立つと思う。 3. 定員割れについて考える ～選ばれる学校をめざして～ ・定員が割れていても、学校統廃合の対象にならないくらい特色や魅力のある学校であることが大切。 ・広報に SNS を利用してはどうか。 ・「布施北はこういう高校生活を送れる学校だ」、という広報、アピールを継続して行ってほしい。 ・通信制の高校を希望する中学生が増えてきているとのことだが、「全日制の学校に通うこと」にも大きな意味がある。布施北の魅力を発信してほしい。 ・外国にルーツのある生徒もデュアル実習に参加し、就職する、という流れがすでにできている布施北のデュアルシステムは新たな価値を持っている。 第 2 回 11 月 15 日（金） 1. 見学した授業について ・多文化理解にも繋がるととても良い内容であった。 ・社会人準備講座は、親やきょうだいにそれとなく教えてもらっていた内容を、先生自身の実体験を交えて聞き・学ぶことで今後の実生活に活かすことができると感じた。 ・先生が工夫して生徒が興味を持てる内容だった。先生と生徒の関係が良好で生徒が安心して授業を受けている様子で良かったと思う。 ・教員、生徒がスクールポリシーを理解しており、教員が「めんどろみのよさ」を実践しているように感じる。 ・様々なルーツの生徒が在籍していることは本校の強み。多文化教育の先進的なモデル校となるよう今後もこの強みを活かして頑張ってもらいたい。 2. 学校の状況について ・先生たち一人ひとりが定員割れについて強い危機感を持っているのは良いことだ。本校が大切にしているものを伝え、どんな生徒に入学してもらいたいかの意思表示もできていることは良いことである。 第 3 回 2 月 1 日（土）実施 1. 学校経営計画について ・新しい世界を開くための入口となる、ポジティブな意味での「学びなおし」の意義や、布施北での学びが一生ものの経験になることが中学生にイメージできるようにする伝え方をもっと考える余地がありそう。 ・学校が通信教育の制度を使った不登校支援について考えたり、気軽に相談できる先生がいたり、教育相談が充実していたりする、ところが布施北らしくてよいと思った。 ・デュアル実習のおかげで進路への見通しを立てつつあり非常に価値がある。 ・実習先で、生徒が会社の中で起こるネガティブな場面にも遭遇することがあると思うが、その経験は、社会に出た際には色々な人がいる、ということを高校生段階から知ることができるという点で、大変良いこと。 2. 学校教育自己診断の結果について ・回答率を上げるには、回答はデータ、案内は QR コードを印刷した紙の配布、といった形で実施するのが丁度良いかもしれない。 3. 3 年生対象のエンパワメントスクールアンケート結果について ・学校側が企業を教育するくらいの気持ちでよいと思う。地域の生徒なので、一緒になって生徒を育てていく気持ちを大切にしたい。 4. その他 ・校則が厳しすぎると萎縮して学校に行きづらくなってしまう部分もある。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和5年度値]	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出す授業展開 (2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実 (3) 教職員の授業力等の向上	(1) ア 授業規律を一致して指導し、授業等を通じた生徒指導を行うことで、落ち着いた授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出し、基礎基本の学力の定着を図るとともに、生徒の自己肯定感を高める。 ウ 障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒等に対して、個別の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。 (2) ア 「正解が1つではない課題」に取り組ませ、社会人基礎力、コミュニケーション能力、情報活用能力を身につけさせる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムを通して、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育む。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。 (3) ア 法定研修等を活用した授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」「生徒の学習意欲を引き出す授業」づくりのための授業改善に取り組む。 イ ICTを活用した授業を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の深化を図る。 ウ ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成を図り、学校力を向上させる。	(1) ア 生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度)75%以上維持[78.3%] イウ 生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価85%以上維持[91.5%] ・ユニバーサルデザインの観点から、教材や配付プリントを作成する。 (2) アイ 生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価85%以上維持[88.7%] ・教職員学校教育自己診断「参加体験型の学習指導等の工夫改善」肯定的評価85%以上維持[91.4%] ・インターンシップ出席率の維持[95.0%] ・デュアル実習出席率の維持[94.5%] ウ 生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価50%以上維持[50.9%] (3) ア 授業研究や公開授業を実施し、教科会議等で授業改善について検討する機会を持つ。(授業研究年5回以上実施) ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均60%以上を維持[61.5%] イ 教員学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」肯定的評価アップ[74.1%] ウ 校内初任者研修の充実	(1) ア 授業規律の指導に継続して取組み、落ち着いた学習環境を作っている ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度)77.4%(○) イ モジュール授業では特に生徒の課題に応じて基礎や基本の定着を図る取組みを継続して行っている。 ウ 障がい等により配慮や支援を必要とする生徒に、状況に応じた学習支援を行った。また日本語指導が必要な生徒等に対しては抽出授業を中心に、個々のニーズに応じた学習支援、進路支援を行った。 ・生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価91.4%(○) ・ユニバーサルデザインの観点から授業や教材の工夫を行った。 (2) ア エンパワメントタイムについては指導担当者間で内容や評価について協議を行いながら実施した。 イ 実習に向けて、丁寧なオリエンテーションや校内研修を実施するとともに、外部から招いた特別非常勤講師による授業を取り入れるなど、社会と関わりを持った取組みがより充実したものになるよう進めた。 ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価92.8%(◎) ・教職員学校教育自己診断「参加体験型の学習指導等の工夫改善」肯定的評価86.5%(○) ・インターンシップ出席率98.4%(◎) ・デュアル実習出席率(2年95.0%(○)・3年93.0%(△)) ウ 本校と連携している地域の企業や、多文化理解促進に取り組む団体等から特別非常勤講師を招いた授業を数多く実施した。 ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価61.6%(◎) (3) ア インターメディアイト研修やアドバンス研修に積極的に参加するとともに、それらに伴う公開授業や授業公開週間を実施した。テーマを定めて研究協議を行う機会をより充実する必要がある。 ・授業研究2回(△):12月末時点 ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均62.2%(○) イ 1人1台端末をはじめ、ICT機器の活用については定着が進んでいる。 ・教職員学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」肯定的評価90.4%(◎) ウ 校内初任者研修を時間割の中に位置づけて19回実施した(○)。
2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と	(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実	(1) ア 丁寧な遅刻指導、頭髪指導や服装指導等により、規範意識や基本的生活習慣の定着と自主性の伸長をはかる。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問等、保護者との連携により信頼関係を築き、生徒理解に繋げる。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施し、一人ひとりを大切にする生徒指導やキャリア教育に活用する。 エ いじめ対策委員会を中心に、いじめを早期に発見し、迅速かつ適切な対応を行う	(1) アイウエ 中高連絡会の実施 ・入学当初の随時迅速な中高連携を実施 ・いじめ対策委員会の迅速実施 ・中途退学者率5%以下[5.7%] ・欠席のべ人数の減少[7232人] ・遅刻のべ人数の減少[4387人]	(1) ア 生徒の基本的な生活習慣の定着に向けて、教員全体が日々の教育活動の中で取り組みを進めている。 イ 家庭連絡や家庭訪問を積極的に行い、保護者としてしっかりと連携を図った。 ウ 入学決定時点から、迅速に中学校訪問を進め、中高連絡会も実施する等、緊密に中高連携を行い、個々の生徒の課題に応じた指導が実施できるように努めた。 エ アンケートを実施・分析するとともに、事例に応じていじめ対策委員会を迅速に実施、外部人材等とも連携して対応を図った。 ・中途退学者率5.6%(△) ・欠席のべ人数8310人(△) ・遅刻のべ人数4979人(△)

府立布施北高等学校

魅力ある学校づくり	(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり	(2) ア 要配慮生徒等に関する生徒の情報共有会議を実施し、教育活動全般に活かす。専門人材(SC 及び SSW 等)との連携を強化し、迅速に要配慮生徒のケース会議を実施する。また、生徒の状況やニーズに応じた学習支援等、支援体制や学習環境を充実させる。 イ 子ども家庭センター等、関係外部機関との連携を拡充し、教育相談を充実させる。 ウ 生徒が安心できるクラスづくりを進めるとともに、学校生活等の悩みを相談できる居場所の設置や専門人材 (SC・SSW) 等による生徒や保護者への支援 (SST 等) を拡充し、学校生活全般をサポートする教育相談体制を充実させる。 エ 生徒会と協力して学校行事、生徒会行事、部活動の体験入部等、生徒活躍の場 (自主的活動の場) を活性化し、生徒の高校生活の充実につなげる。	(2) アイウ ・ 生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価 70%以上維持 [70. 3%] ・ 教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備されている」肯定的評価 80% 以上維持 [82. 8%] ・ 情報共有会議の実施 (学年会議・教科担当者会議) ・ 専門人材や外部機関とも連携したケース会議の迅速実施 ・ 教育相談室・図書館の定期的な開室 (昼休み) エ ・ 生徒会主体の行事等運営 ・ 生徒学校教育自己診断「学校・クラスが楽しい」の肯定的評価 75%以上 [74. 2%] ・ 生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価 80%以上維持[81. 1%] ・ 体育大会出席率 80% 以上 [78. 5%]、文化祭出席率 90%以上維持 [90. 2%] (3) ア ・ 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 85%以上維持 [87. 7%] ・ 各種講演会の効果的实施 イ ・ 教職員研修年間 3 回以上 [7 回] ウ ・ 生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価 60%以上維持 [64. 0%]	(2) アイウ 教育相談室を昼休みに開室するとともに、SC・SSW の勤務日には放課後も 57 日間開室した。 また、ケース会議を SC と 33 回、SSW と 38 回実施する等、専門人材や外部機関との連携を継続的に図ることができた。 昼休みに継続的に図書室や多文化教室を開室し、教室以外の生徒の居場所がある、という状況を維持している。 ・ 生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価 78. 5% (◎) ・ 教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備されている」肯定的評価 94. 2% (◎) エ 学校行事において、生徒が作り上げる場面を大切にすることで、主体的に行事を進める姿を見ることができた。 ・ 生徒学校教育自己診断「学校・クラスが楽しい」の肯定的評価 79. 8% (○) ・ 生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価 83. 0% (○) ・ 体育大会出席率 93. 8% (◎) ・ 文化祭出席率 88. 2% (△) (3) ア 3 年間を通じて取り組む人権学習を計画し、系統的に実施している。 健康教育に関しては、学校薬剤師による薬物乱用防止教育、外部講師を招いた性教育の取組みを実施した。 ・ 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 85. 1% (○) イ 部落問題に関するフィールドワーク、SC や SSW による生徒指導・教育相談・支援教育に関する教職員研修等を実施した。 ・ 教職員研修実施 5 回 (○) ウ 多文化研究部による文化祭における舞台発表や企画発表を行うとともに、生徒たちによる地域の小学校の多文化理解授業や、中央図書館の外国語の絵本の紹介 POP 作成に取り組んだ。大阪マラソンボランティア、府立外教主催の WaiWai トーク等で生徒が活躍した。 ・ 生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価 68. 9% (○) ・
3 キャリア教育・進路指導の充実	(1) 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育の取組み	(1) ア インターンシップ、デュアル実習、各種検定試験の取組み、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学などの見学や体験の機会を設け、生徒が夢や志を持って自己の可能性を広げたり、進路設計への主体的意識を高めたりできるよう支援する。 イ 進路講演等体系的なキャリア教育を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。	(1) アイ ・ 進路未定率 15%以下維持 [10. 7%] ・ 学校斡旋就職内定率 95%以上維持 [100%] ・ 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85% 以上継続 [85. 4%]	(1) ア 生徒が主体的にキャリア形成できるよう、インターンシップ、大学・専門学校見学会、進路説明会等、体験的に進路を考える機会を多く設けて支援を行った。 イ キャリア基礎など 3 年間を通じて実施するエンパワメントタイムの取組みをインターンシップ等デュアルシステムと結び付けたり、卒業生による進路講演会を実施したりするなど、様々な形で生徒に働きかけるキャリア教育を行っている。 ・ 進路未定率 10. 5% (○) ・ 学校斡旋就職内定率 100. 0% (◎) ・ 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85. 7% (◎)

府立布施北高等学校

	(2) 地域等との連携強化	(2) ア 生徒のニーズに合った、デュアルシステム協力企業・施設等との連携を拡充する。デュアル実習発表会の充実を図る。 イ 企業関係者地域人材の方々をエンパワメントタイム等の講師に活用し、教育活動における地域とのかかわりを深める。 ウ 地域の外部機関（東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等）や小・中・大との連携を強化する。	(2) アイ ・ 地域学校協働本部と連携したデュアルシステム意見交換会の開催〔1回〕 ・ デュアル地域学校協働本部の開催年間3回以上〔3回〕 ウ ・ 教員・生徒による地域の外部機関のイベント、会合への積極的参加〔6回〕	(2) ア これまでに連携した企業を中心に連絡を取り合いながらデュアル実習等への協力事業所を維持・拡大するとともに、「デュアルシステムのための地域学校協働本部」と連携して学校と事業者で意見交換する機会を設けるなど、地域とともに取組みを進めている イ インターンシップ等に向けた事前・事後学習や、デュアル実習の校内研修等において地域からも多くの講師を招いて授業を実施した。 ・ 地域学校協働本部と連携したデュアルシステム意見交換会の開催1回（○） ・ デュアル地域学校協働本部の開催3回（○） ウ 地域や地域の事業所のイベントに生徒・教員が参加した（意岐部フェスタ・地域保育園のクリスマスイベント等）。地域の小学校から生徒が来校して多文化理解授業を受けたり、中央図書館と連携した取組みを実施したりした。 また、生徒たちが大学や海外の高校とオンライン等で交流する体験ができた（中央大学・台湾東海大学・デイル観光高校） ・ 教員・生徒による地域の外部機関のイベント、会合への参加6回（○）
4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信	(1) 教育活動の充実 (2) 積極的な情報発信	(1) ア HR 活動、学年行事や課外活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。 イ キャリアコーディネーター（CC）等外部人材の活用を進める。 (2) ア 中高連携・学校説明会、公開授業を積極的に実施し、本校の特色の理解と信頼を獲得する。 イ ホームページ（HP）や様々な媒体を活用し、中学生・保護者・地域へ、本校の魅力や生徒の高校生活の様子について、掲載し、広報活動を行う。 ウ PTA・同窓会との連携を充実させるとともに、学校行事への参加や PTA 活動への参加を呼び掛け、活性化させる。	(1) アイ ・ 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 85%以上維持〔86.6%〕 ・ CC 等外部人材の積極的活用 (2) ア ・ 広報を目的とした、全職員による中学校訪問の継続〔85校〕 ・ 学校説明会参加者 300人以上〔247人〕 イ ・ リーフレットのリニューアル ・ HP のブログ更新 60 回以上〔68回〕 ウ ・ 保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」評価 40%以上〔R5データなし〕	(1) ア HR 活動や学校行事において、生徒たちに自分たちで決めたり進めたりする場面を設け、多くの経験をさせることができた イ キャリアコーディネーターをはじめ、多くの特別非常勤講師を活用してキャリア教育や文化体験を実施することができた。 CC・SC・SSW・通訳・学習支援員・看護師・介助員等、様々な専門人材の助けを得て、学校生活全般にわたる支援を行うことができた。 ・ 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 88.1%（◎） (2) ア 中学校への訪問説明、学校説明会、府立学校進学フェア等の機会を通じて本校の取組みについて発信を行った。 ・ 広報を目的とした、全職員による中学校訪問 85 校（○） ・ 学校説明会参加者 397 人（○） イ 学校 Web ページの2つのブログで学校の取組みを随時発信した。また、SNS のアカウントを新規開設し、これを利用した発信について試行を始めた。 ・ HP のブログ更新 40 回、新たに SNS による広報も開始し、21 回更新した。（○） ウ 参観日を設けるとともに学校行事への参加を呼び掛けた。また、PTA と連携した学校教育活動の充実を進めることができた（体育大会、文化祭・緑化・清掃の活動等）。同窓会には、運営方法や周年行事について相談しながら連携を深め、設備面での支援等検討いただいた。 ・ 保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」評価 60.4%（◎）
5 教職員の働き方改革を進める	(1) 働き方改革	(1) ア 全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施の徹底等、働き方改革について、教職員の意識を高め、仕事の効率化を図る。 イ 時間外勤務の多い人の状況を把握し、声掛けするとともに、時間外勤務時間個票の配付を継続して健康管理への留意を促すとともに、縮減に向けて産業医と連携や助言の活用を進める。	(1) アイ ・ 校務の情報化・合理化等の推進 ・ 教員時間外勤務の年間平均時間 295 時間以下〔296 時間〕 ・ 教員月 80 時間超過者の延べ人数の減少〔10人〕	(1) ア 勤務時間外における学校電話の自動音声対応時間を広げた。その他、デジタル採点等、業務の効率化につながる取組みも進んでいるが、働き方改革の進展には業務全体のスリム化が必要 イ 面談や声掛けとともに、時間外勤務時間個票の配付を行い、教職員に時間外勤務時間の縮減と健康管理意識の促進を図った。 ・ 教員時間外勤務の年間平均時間 293.8 時間（○） ・ 教員月 80 時間超過者の延べ人数 26 人（△）